

## 地形・地質

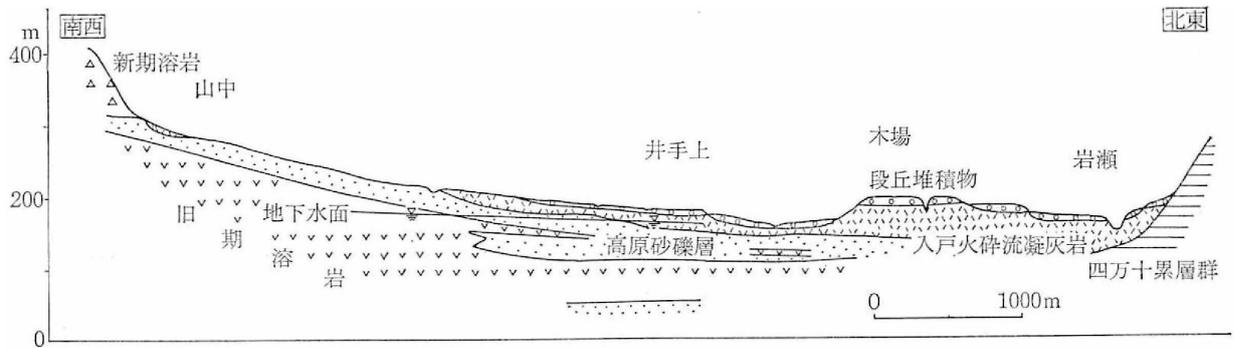
霧島火山とその北方に分布する更新世前期の肥薩火山岩類からなる山地との間に2つの盆地があり、加久藤盆地と小林盆地と呼ばれています。両盆地内には、更新世後期に噴出した始良カルデラの入戸火砕流の軽石凝灰岩層（しらす）が厚く堆積し、しらす台地を浸食した河岸段丘が良く発達しています。

加久藤・小林盆地の層序表

時代	地層名	<sup>14</sup> C年代	
第四紀	完新世	6000Y.B.P.	
	更新世	段丘構成層 池島段丘 原田段丘 上江段丘 飯野段丘 田代段丘	18000Y.B.P.
		霧島新期溶岩	21000～22000Y.B.P.
		白鳥段丘	21000～22000Y.B.P.
		加久藤層群 入戸火砕流	22000～22500Y.B.P.
		霧島旧期溶岩	22000～22500Y.B.P.
	先第四紀	四万十累層群	
	えびの層群 高原砂礫層 肥薩火山岩類		

## 地下水

主要帯水層は霧島山の新期溶岩や旧期溶岩、入戸火砕流堆積物下に位置する高原砂礫層中の粗粒堆積物です。新期溶岩や旧期溶岩からは、台地末端の多くの箇所から地下水の湧出が認められます。



小林盆地の模式的地質断面図

出典 日本の地下水（農業用地下水研究グループ,1986）（一部加筆）

「日本の地下水」では全国の地下水盆の概要が紹介されています。各地下水盆の概要を紹介している頁と関連する論文等を、下記のWeb ページで閲覧できます。

[https://jagh.jp/activities/groundwater\\_database/](https://jagh.jp/activities/groundwater_database/)（日本地下水学会）